

オンキヤスパーによる治療を受けられる方へ

監修：岡本 康裕 先生

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野 教授



はじめに

オンキヤスパーは、血液のがんである急性リンパ性白血病^{はっけつびょう}(ALL)あるいは悪性リンパ腫の治療薬です。

この冊子では、オンキヤスパーによる治療を受けられる患者さんやそのご家族に向けて、オンキヤスパーのはたらき、副作用、治療中に気をつけることなどについて解説しています。治療を始める前に、ご一読いただくとともに、治療中も、いつでも確認できるようにしておきましょう。

わからないことや心配なことがありましたら、担当医、薬剤師、看護師にご相談ください。

もくじ

オンキヤスパーとは	3
治療前に確認いただきたいこと	4
オンキヤスパーによる治療	6
他の薬などとの併用について	7
オンキヤスパーの副作用	8
オンキヤスパーによる治療中に気をつけること	14

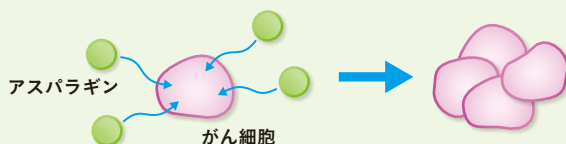
オンキアスパーとは

オンキアスパーは、アスパラギンを分解するL-アスパラギナーゼにPEG^{ベグ}※を結合した薬です。PEG^{ベグ}の結合により、からだに長く留まって効果を発揮することができます。

アスパラギンは、血液細胞が生きていくために必要なアミノ酸で、正常な血液細胞では、細胞内にあるアスパラギン合成酵素によってつくられます。しかし、急性リンパ性白血病^{はっけつびょう}(ALL)や一部の悪性リンパ腫のがん細胞は、アスパラギン合成酵素を持っていないため、細胞の外からアスパラギンを取り込む必要があります。オンキアスパーは細胞外にあるアスパラギンを分解するため、がん細胞はアスパラギンを取り込めず、増殖できなくなります。

※PEG^{ベグ}:ポリエチレングリコール

がん細胞 (オンキアスパー投与前)



白血病などのがん細胞は、アスパラギンを細胞外から取り込み、がん細胞が増殖します

がん細胞 (オンキアスパー投与後)



オンキアスパーは細胞外のアスパラギンを分解するため、がん細胞はアスパラギンを取り込めなくなり、がん細胞が増えるのを抑えます

治療前に確認いただきたいこと

オンキヤスパーによる治療を受けられる方

オンキヤスパーによる治療は、以下と診断された方が受けられます。

- 急性リンパ性白血病(ALL)
はっけつびょう
- 悪性リンパ腫



オンキヤスパーによる治療を受けられない方

以下の方は、オンキヤスパーによる治療を受けられません。

- オンキヤスパーに含まれる成分により、^{じゅうとく}重篤なアレルギー症状(発熱、発疹、呼吸困難など)があらわれたことがある方
- 肝臓に重度の障害がある方
- L-アスパラギナーゼにより、^{じゅうとく}重篤な血栓症があらわれたことがある方
- 膵炎(L-アスパラギナーゼによる膵炎を含む)にかかったことがある方
- L-アスパラギナーゼにより、^{じゅうとく}重篤な出血があらわれたことがある方

オンキヤスパーによる治療を受けるときに 注意が必要な方

以下に該当する方は、治療前に担当医、薬剤師、看護師に相談してください。

- L-アスパラギナーゼにより、アレルギー症状(発熱、発疹、呼吸困難など)があらわれたことがある方
- 妊娠または妊娠している可能性のある方
- 授乳中の方

オンキヤスパーによる治療

オンキヤスパーの投与方法

- オンキヤスパー投与開始30～60分前に、過敏症を軽くするための薬を投与することがあります。
- オンキヤスパーは、1～2時間かけて点滴で投与します。
- 副作用により、オンキヤスパーを休薬、中止、または点滴時間を変更することがあります。

過敏症を軽くする薬*

30～60分

オンキヤスパー点滴
1～2時間

※投与しない場合もあります

多剤併用療法

- 投与スケジュールは、組み合わせて用いられる抗がん薬によって異なりますので、詳しくは担当医に確認してください。

オンキヤスパー



+

他の抗がん薬

オンキヤスパーは他の抗がん薬と併用されます

他の薬などとの併用について

オンキヤスパーと他の薬を併用することによって、薬の効果が弱くなったり副作用が強くあらわれたりする可能性があります。以下のような場合は、あらかじめ担当医、薬剤師、看護師に相談してください。

- 他科を受診するときや他の薬を使用するとき
- 薬局で市販薬を購入するとき
- 健康食品やサプリメントを購入するとき

オンキヤスパーの副作用

オンキヤスパーによる治療中は、副作用を早期に発見するために、定期的に検査が行われます。また、患者さん自身も、オンキヤスパーの副作用を知ることにより、副作用の早期発見、早期対応が可能となり、副作用の重症化を防ぐことにつながります。気になる症状があらわれたり、体調がいつもと異なる場合は、担当医、薬剤師、看護師にご相談ください。

主な副作用

- 食欲減退
- 貧血
- 凝固異常(出血しやすい、青あざができるなど)
- 脱毛症
- 倦怠感けんたいかん
- 嘔吐、吐き気 など

注意していただきたい副作用

気になる症状があらわれたら、次の診察日を待たず、すぐに担当医、薬剤師、看護師に相談してください。

過敏症

主な症状

- 発熱、寒気
- 発疹、かゆみ
- 息苦しい
- 意識の低下



膵炎

主な症状

- 強い腹痛
- 背中への痛み
- お腹が張る
- 吐き気、嘔吐



注意していただきたい副作用

出血

主な症状
(小腸からの出血)

- 吐き気、嘔吐
- 腹痛
- 便に血が混じる、
黒い便がでる



血栓塞栓症^{そくせん}

血栓塞栓症^{そくせん}とは、血液中に血のかたまり(血栓)ができて、血管が詰まることによって起こります。あらわれる症状は、詰まった血管によって異なります。

主な症状

- 吐き気、嘔吐
- 突然の息切れ
- 脱力・まひ
- 激しい腹痛
- 激しい頭痛
- 激しい足の痛み
- 胸の痛み



肝機能障害

主な症状

- ・ 疲れやすい
- ・ からだがだるい
- ・ 力が入らない
- ・ 吐き気
- ・ 食欲不振



こつずい 骨髄抑制

こつずい 骨髄抑制は、こつずい 骨髄(血液細胞の工場)のはたらきが低下し、血液細胞(赤血球、白血球、血小板)が減少することによって起こります。

主な症状

- ・ 発熱、寒気
- ・ のどの痛み
- ・ 鼻血、歯ぐきからの出血
- ・ 青あざができる
- ・ 出血が止まりにくい
- ・ 頭が重い
- ・ 動悸、息切れどうき



注意していただきたい副作用

感染症

主な症状

- ・ 発熱、寒気
- ・ からだがだるい
- ・ 風邪のような症状



脂質異常症

血液中の脂質(トリグリセリドやコレステロールなど)が増加することがあります。自覚症状はほとんどないため、血液検査により脂質の状況を確認します。

高血糖

主な症状

- のどが渇く、水をたくさん飲む
- 尿量が増える
- からだがだるい
- 体重が減る



中枢神経障害

主な症状

- 意識の低下・消失
- 頭痛
- しゃべりにくい
- 手足のふるえ
- 物事が思い出せない・覚えられない



オンキヤスパーによる治療中に 気をつけること

感染症対策

治療によって白血球が減少し、免疫力が低下しているため、感染症にかかりやすくなっています。

- 手洗い、うがいをこまめに行いましょう。
- 歯磨き、入浴などでからだを清潔に保ちましょう。
- 外出時はマスクを着用し、人混みを避けましょう。



食欲がないとき

- 吐き気があるときや、食欲がないときは、無理をして食事をとる必要はありません。食べたいときに、食べられそうなものを食べましょう。
- 食べられないときでも、水分はこまめにとりましょう。
- 食べられない日が続く場合は、担当医、薬剤師、看護師に相談してください。

車の運転など危険を伴う機械の操作

- オンキヤスパーによる治療により、けいれん発作、失神などがあらわれることがあるため、車の運転など危険を伴う機械の操作には注意してください。



日本セルヴィエ株式会社

2024年7月作成
M-ONCAS-JP-202406-00003